

「オリンピックの理念とオリンピック・ムーブメントの展開」

田原淳子（国士舘大学）

（1）オリンピックの原則

『オリンピック憲章』国際オリンピック委員会〔2017年9月15日から有効〕

● オリンピズムの根本原則

1. オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。
2. オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和の取れた発展にスポーツを役立てることである。
3. オリンピック・ムーブメントは、オリンピズムの価値に鼓舞された個人と団体による、協調の取れた組織的、普遍的、恒久的活動である。その活動を推し進めるのは最高機関のIOCである。活動は5大陸にまたがり、偉大なスポーツの祭典、オリンピック競技大会に世界中の選手を集めるとき、頂点に達する。そのシンボルは5つの結び合う輪である。
4. スポーツをすることは人権の1つである。すべての個人はいかなる種類の差別も受けることなく、オリンピック精神に基づき、スポーツをする機会を与えられなければならない。オリンピック精神においては友情、連帯、フェアプレーの精神とともに相互理解が求められる。
5. スポーツ団体はオリンピック・ムーブメントにおいて、スポーツが社会の枠組みの中で営まれることを理解し、自律の権利と義務を持つ。自律には競技規則を自由に定め管理すること、自身の組織の構成とガバナンスについて決定すること、外部からのいかなる影響も受けずに選挙を実施する権利、および良好なガバナンスの原則を確実に適用する責任が含まれる。
6. このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。
7. オリンピック・ムーブメントの一員となるには、オリンピック憲章の遵守およびIOCによる承認が必要である。

●第1章 オリンピック・ムーブメント 2 IOC の使命と役割

IOC の使命は世界中でオリムピズムを奨励し、オリンピック・ムーブメントを主導することである。IOC の役割は以下の通りである。

1. スポーツにおける倫理と良好なガバナンスの促進、 およびスポーツを通じた青少年教育を奨励し支援する。さらに、スポーツにおいてフェアプレー精神が広く行き渡り、暴力が禁じられるよう、全力を尽くす。
2. スポーツと競技大会の組織運営、発展および連携を奨励し支援する。
3. オリンピック競技大会を定期的に確実に開催する。
4. スポーツを人類に役立てる努力において、権限を有する公的または私的な組織および行政機関と協力し、その努力により平和を推進する。
5. オリンピック・ムーブメントの結束を強め、その主体性を守り、スポーツの自律性を保護するために行動する。
6. オリンピック・ムーブメントに影響を及ぼす、いかなる形態の差別にも反対し、行動する。
7. 男女平等の原則を実践するため、あらゆるレベルと組織において、スポーツにおける女性の地位向上を奨励し支援する。
8. ドーピングに対する戦いを主導し、いかなる形態の試合の不正操作、および関連する不正行為に対抗する行動をとることにより、クリーンな選手とスポーツの高潔性を保護する。
9. 選手への医療と選手の健康に関する対策を奨励し支援する。
10. スポーツと選手を政治的または商業的に不適切に利用することに反対する。
11. スポーツ団体および公的機関による、選手の社会的、職業的将来を整える努力を奨励し、支援する。
12. スポーツ・フォア・オールの発展を奨励し支援する。
13. 環境問題に対し責任ある関心を持つことを奨励し支援する。またスポーツにおける持続可能な発展を奨励する。そのような観点でオリンピック競技大会が開催されることを要請する。
14. オリンピック競技大会の有益な遺産を、開催国と開催都市が引き継ぐよう奨励する。
15. スポーツと文化および教育を融合させる活動を奨励し支援する。

16. 国際オリンピック・アカデミー（IOA）の活動およびオリンピック教育に取り組むその他の機関の活動を奨励し支援する。

（２）オリンピックの価値

◆オリンピックの本質的価値

・エクセレンス（Excellence：卓越）

スポーツに限らず人生においてベストを尽くすこと。大切なのは勝利することではなく、目標に向って全力で取り組むことであり、身体と意志と精神の健全な調和を育むことである。

・リスペクト（Respect：敬意／尊重）

互いに敬意を払い、ルールを尊重することはフェアプレー精神を育む。これはオリンピック・ムーブメントに参加するすべての人にとっての原則である。

・フレンドシップ（Friendship：友情）

スポーツでの喜びやチームスピリット、対戦相手との交流は人と人をつなぎ付け、相互理解を深める。そのことは平和でよりよい世界の構築に寄与する。

◆オリンピック教育のテーマ

・努力から得られる喜び（Joy of Effort）

若者は身体活動、運動、ゲーム、スポーツを通じて、自分自身あるいは相互で挑戦することにより、身体、行動そして知力のそれぞれのスキルを発達させ実践する。

・フェアプレー（Fair Play）

フェアプレーは元来スポーツから生まれたコンセプトであったが、試合の場を越えて様々な方法や状況で応用されてきている。スポーツでフェアプレーの行動を学ぶことは、日常生活におけるフェアな行動の育成と強化につながる。

・他者への敬意（Respect for Others）

多文化世界に生きる若者が多様性を受け入れて尊重することを学び、個人として平和な行動を実践すれば、平和や国際理解を促進することになる。

・卓越性の追求（向上心）（Pursuit of Excellence）

卓越性を念頭に置くことは、若者が肯定的で健全な選択をし、何をするときにもできる限り最高の存在になろうと努力する助けになる。

・身体と意志と精神のバランス（Balance between Body, Will and Mind）

学ぶという行為は、精神的な面だけではなく全身で行うものであり、フィジカル・リテラシー（身体やスポーツの知識）や運動を通じた学習は、道徳的にも知的にも学習の発達に寄与する。

（3）クーベルタンの言葉

①古代に行われていたオリンピックを現代に復活しようとした理由

「みんな自分の国に勝って欲しいという思いは強いだろう。だが、もっと強いのは、国が危機に瀕した時にそれを脱したいという思いだ。だから私は、オリンピックを復活させる。そこには勝利を求める以上に、国を超えて休戦を誓い、守り抜く可能性があるから」（1896年）

②アスリートへの期待と眼差し

「100名の者がその肉体を鍛えるには、50名がスポーツをする必要がある。50名がスポーツをするには、20名が専門化する必要がある。20名が専門化するには、5名が優れた高い技能の持ち主であることが必要である」（ラジオ演説「近代オリピズムの哲学的原理」1935年）

「自己を知ること、自己を律すること、自己に打ち克つこと、これこそがアスリートの義務であり、もっとも大切なことである」

「努力は至上の喜びである。成功は目的ではなく、より高きものを目指すための一つの方法である。個人は人間性という文脈の中でしか価値をもたない」

③日本で開催されるオリンピックに期待したこと

「…第12回オリンピック大会を東京において開催する日本の使命は今日まで何れの国に与えられた使命よりも遙かに重大である。

東京オリンピック大会は単にオリンピックの炬火を世界に照らし全アジアに近代オリンピック精神を最も懇篤なる方法によりて普及せしめるのみならず、古代欧州文明の最も貴重なる所産たる世界的なヘレニズムを、最も洗練されたアジアの文化芸術と結び付けるものである。

近代オリンピック大会を創始することにより世界の精神的協力に若干の寄与をなし得たことは予の最も欣懐とするところである」

（東京大会組織委員会技術顧問ヴェルナー・クリンゲベルク宛書簡 1937年7月29日）

④クーベルタンのモットー

「先を見て、率直に話し、確実に行動しなさい。」 << See afar, speak frankly, act firmly.>>